

第3章「基礎戦略2」 総合力豊かな人材を育てるまちづくり

子どもを健やかに育てるための生活環境や、子育てを支援する雇用環境の充実などを図りながら、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりに努めるとともに、「知・徳・体」の調和のとれた児童生徒の育成を目指し、学び考える力、豊かな心、健やかな体を育み、社会人として必要な総合的な力を身に付ける教育の充実を図ります。

また、市民の芸術文化活動へのニーズに応える取り組みを進めるとともに、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。

【指標の状況】

指標名	目標の方向	基準値(H26)	目標値(H30)	実績値(H30)	達成率
第1節 子育て支援の充実					
子育て支援に関する満足度平均値(ポイント)※1 市民満足度アンケート	↑	2.8	3.3	2.9	88%
特別保育事業の実施箇所数(箇所)	↑	25	39	50	128%
教育・保育の提供不足量(人) ※2	↑	55	0	0	100%
第2節 学校教育の充実					
学習状況が良好な児童の割合・小学校(%)	↑	87.5	89.5	86.8	97%
学習状況が良好な生徒の割合・中学校(%)	↑	72.0	78.0	71.7	92%
英語の授業がわかる生徒の割合(%)	→	71.7	74.5	68.0	91%
中高生海外派遣事業派遣者数(人)※再掲	→	10	10	8	80%
第3節 生涯学習の充実					
市民1人あたりの社会教育施設(公民館)利用回数(回)	↑	3.65	3.98	3.72	93%
文化施設利用者数(人)	↑	99,700	101,200	110,640	109%
市民1人当たりの貸出冊数(冊)	↑	3.6	4.0	3.4	85%
第4節 生涯スポーツの振興					
生涯スポーツに関する満足度平均値(ポイント)※3 市民満足度アンケート	↑	3.01	3.15	2.96	94%
市民1人当たりの体育施設利用回数(回)	↑	4.85	5.35	4.83	90%
三船十段記念館入館者及び道場利用率(%) ※4 総人口に占める入館者及び道場利用者数の割合	↑	25.86	29.21	34.56	118%
第5節 男女共同参画社会の推進					
男女共同参画に係る出前講座(回)	↑	4	5	5	100%
審議会等における女性委員登用率(%)	↑	35.9	38.0	32.1	84%
男女共同参画サポーター認定者数(人)※累計	↑	32	38	39	103%

※1 「子育て支援に関する満足度平均値」のH26の欄の数値はH27の数値を使用。

※2 「教育・保育の提供不足量」のH26欄の数値は「久慈市 子ども・子育て支援事業計画」のH27見込み数値を使用

※3 「生涯スポーツに関する満足度平均値」のH26の欄の数値はH27の数値を使用。

※4 総人口に占める入館者及び道場利用者数の割合

目標の方向が「↑」の場合：実績値が大きいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。
目標の方向が「↓」の場合：実績値が小さいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。

【総合評価】

【第1節 子育て支援の充実】

子育て支援の充実については、児童手当や児童扶養手当を支給したほか、医療費助成事業において、中学生まで医療費の助成を全額に拡大しました。また、多様な保育ニーズに応えるための延長保育や一時保育、病児・病後児保育といった特別保育事業の実施箇所数は、50カ所となり、目標を達成しております。保育施設の整備については、耐震性に不安のあるブロック塀からフェンスへの改修等に対して支援を行いました。

今後も、各種の媒体を通じた情報の発信に努めるとともに、保育園等の施設や各種の子育て支援事業の充実を図り、市民満足度の向上に努めてまいります。

【第2節 学校教育の充実】

学習環境の取り組みについては、総合的な学習の時間では、児童生徒の活動の幅や視野を広げるため農業体験、工場見学等を行ったほか、山形地区での集合学習や高校生・ALT等を講師とした「学びのサポート学習塾」を開設しました。また、適宜、学校施設の維持補修を行うとともに、遠距離通学支援、就学援助等により学習環境の充実を図りました。

学習状況が良好な児童の割合は、小学5年生が86.5%、中学2年生では71.7%となりました。今後は、数学と英語担当指導主事の派遣により、両教科の教育の充実を図るとともに、各校が実施している「確かな学び豊かな学び実現プラン」の指導に継続して努めてまいります。

【第3節 生涯学習の充実】

市民の生涯学習については、子供から高齢者まで1,750回の学習機会を提供し、49,910人の参加がありました。市民センターの年間の利用者総数は129,459人、市民1人あたり3.71回の利用となっております。文化施設利用者数は、110,640人で目標値の101,200人を達成できました。今後は、市民や団体等が気軽に集まり、利用しやすい施設になるよう努めるとともに、市民のニーズを把握し、多種多様な学習機会の提供に努めてまいります。

【第4節 生涯スポーツの振興】

生涯スポーツについては、各種スポーツ大会や教室を開催し、中でも第3回久慈あまちゃんマラソン大会は参加者1,457人、前年比208人の増となりました。三船十段記念館入館者及び道場利用率は、三船十段杯争奪柔道大会などの各種柔道大会や教室を開催したほか、定期的な特別企画展も開催したことから、昨年度に比べ1.16ポイント増加しております。

今後はスポーツの楽しさを感じられる競技会、イベント事業を検討し、ライフステージに合わせ、身近にスポーツを親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

【第5節 男女共同参画社会の推進】

男女共同参画社会の実現に向け、市民や企業、団体が一体となった取り組みができるよう出前講座や映画上映会、広報による啓発活動を実施したほか、女性リーダーの育成として、団体の活動支援を行うとともに、各種研修会等へ市民を派遣しました。

職場、学校、地域、家庭等あらゆる分野で男女共同参画社会を実現するため、今後は出前講座やイベント等を継続開催し、市民の学習機会を提供するとともに、関係機関との連携を強化し、施策の推進を図ります。

第3章 基礎戦略2
総合力豊かな人材を育てるまちづくり
第1節 子育て支援の充実

【平成30年度の取組】

①子育て環境の充実（子育て支援課・市民課）

・子育て支援センター事業の実施

子育て支援センターにおいて各種の相談指導や子育て支援事業を実施し、児童5,560人、保護者等4,967人の計10,527人の参加がありました。また、子育て支援情報パンフレットを作成し周知しました。

・児童手当の支給

家庭等の生活の安定に寄与し、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資するため、児童手当を支給しました。

受給者数 2,064人、支給額 478,480千円

・指導

母子又は父子世帯の生活の安定と自立の促進に寄与し、児童福祉の増進のため、児童扶養手当を支給しました。

受給者数 416人、支給額 201,137千円

・こども医療費助成事業

県と連携し、乳幼児、小中学生、ひとり親世帯の高校生までの医療費を全額・一部を助成しました。

②幼児期の教育・保育環境の充実（子育て支援課）

・保育サービスの充実

保護者が安心して働くことができるよう、保育所は公立2施設、民間14施設、認定こども園は4施設、へき地保育所は3施設、児童館は1施設で保育サービスの充実に努めました。

また、保育所入所児童の保護者の負担軽減を図るため、国で定められている徴収基準による利用料と比べて127,080千円を軽減しました。

・特別保育事業等の実施

多様な保育ニーズに応えるため、延長保育、一時保育、病児・病後児保育といった特別保育事業や障害児保育事業を実施しました。

・放課後児童健全育成事業

小学校児童を対象に保育を行う学童保育所の運営を支援することにより、児童の健全育成を推進しました。

③保育施設等の整備（子育て支援課）

・民間保育所施設整備事業費補助金

民間保育所の改築やフェンスの改修等に対し補助金を交付しました。老朽化が進んだ施設の改築や、耐震性に不安のあるブロック塀からフェンスへの改修が行われたことにより、安心、安全な保育の提供体制の充実が図られました。

④子育て支援施設の充実（子育て支援課）

・早期療育事業の実施

障害のある児童に対し、指導訓練などの療育を行うため、児童9人を対象として通園の方法による「モウモウルーム」事業を実施しました。

・つどいの広場事業の実施

子育て家庭地域支援を目的とし、しあわせSUN「つどいの広場」を継続実施しました。

・子育て支援センター事業の実施（再掲）

子育て支援センターにおいて各種の相談指導や子育て支援事業を実施し、児童5,560人、保護者等4,967人の計10,527人の参加がありました。また、子育て支援情報パンフレットを作成し周知しました。

【施策の評価】

①子育て環境の充実（子育て支援課・市民課）

市民満足度アンケートにおける子育て支援に関する満足度平均値は、目標を0.4ポイント下回っていますが、平成29年度に続き2年連続で増加しました。

また、医療費助成事業については、県と協力し、助成及び現物給付対象拡大の検討を行い、平成30年10月から、中学生まで医療費の助成を全額に拡大しました。

今後とも、子育て支援情報パンフレットの配架のほか、各種の媒体を通じた情報の発信に努めるとともに、保育園、子育て支援センター等の施設の充実のほか、各種の子育て支援事業の充実を図り、市民満足度の向上に努めてまいります。

②幼児期の教育・保育環境の充実（子育て支援課）

特別保育事業の実施箇所数は50カ所まで増加し、目標値は達成しましたが、更なる幼児期の教育・保育環境の充実に向けて取り組んでまいります。

③保育施設等の整備（子育て支援課）

平成30年度において、老朽化が進んだ民間保育所の改築や、耐震性に不安のあるブロック塀からフェンスへの改修等に対して支援を行いました。これらにより、安心、安全な保育の提供体制の充実が図られました。今後とも、必要とされる教育・保育の量を適切に把握しながら提供量の確保に努めるとともに、施設改修等に対する支援を進めてまいります。

④子育て支援施設の充実（子育て支援課）

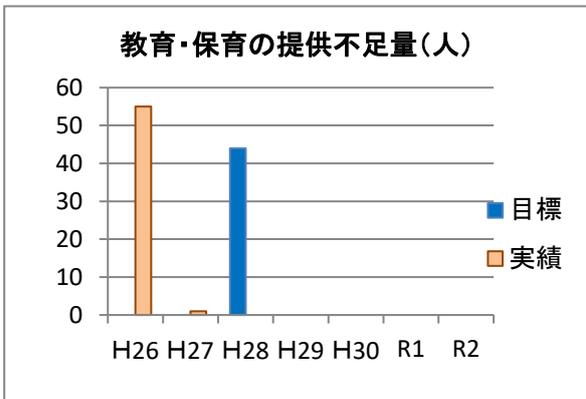
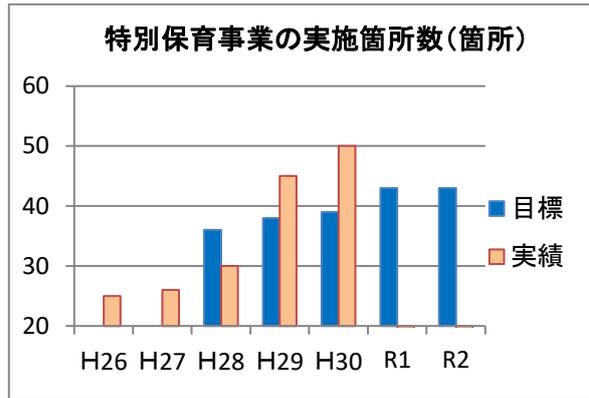
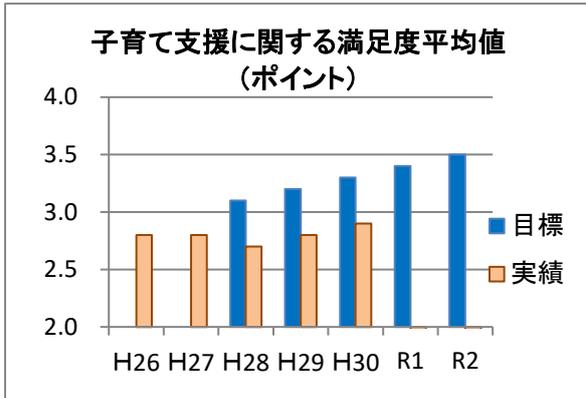
平成30年度において、学童保育所1施設の移転、改修に対し支援を行いました。今後も地域のニーズの把握に努め対応してまいります。また、つどいの広場や子育て支援センター等を拠点とした各種の子育て支援事業の充実を努め、市民満足度の向上に努めてまいります。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
子育て支援に関する満足度平均値（ポイント） ※1 市民満足度アンケート	2.8	目標		3.1	3.2	3.3	3.4	3.5
		実績	2.8	2.7	2.8	2.9	—	—
		達成率		87%	88%	88%	—	—
特別保育事業の実施箇所数（箇所）	25	目標		36	38	39	43	43
		実績	26	30	45	50	—	—
		達成率		83%	118%	128%	—	—
教育・保育の提供不足量（人）※2	55	目標		44	0	0	0	0
		実績	1	0	0	0	—	—
		達成率		100%	100%	100%	—	—

※1 「子育て支援に関する満足度平均値」のH26の欄の数値はH27の数値を使用。

※2 「教育・保育の提供不足量」のH26の欄の数値は「久慈市 子ども・子育て支援事業計画」のH27見込みの数値を使用



第3章 基礎戦略2 総合力豊かな人材を育てるまちづくり 第2節 学校教育の充実

【平成30年度の取組】

①生きる力の育成（学校教育課）

「総合的な学習の時間」では児童生徒の「生きる力」を育むことを目的として多様な体験活動を主とした学習を展開しました。小学校では農作物の栽培、そば打ち、工場見学、職場訪問などを、中学校では宿泊研修が主な活動となりました。

市内の小中学校の児童生徒が一堂に会した音楽発表会では、小学校の部に443名、中学校の部に488名が参加し、日ごろの活動の成果を発表し合いました。また、山形地区では少人数では取り組むことが難しい学習活動を集合学習により年7回実施しました。そのほか、高校生やALT等を講師とした「学びのサポート学習塾」を開設し、冬季は山形地区でも実施しました。

②国際理解教育の充実（学校教育課）

外国語指導助手（ALT）を3名雇用し、市内小中学校で外国語活動及び英語指導補助を行いました。中高生海外派遣事業では、8名の中高生をアメリカへ派遣しました。

滞在期間の半分以上を姉妹都市フランクリン市でのホームステイとし、現地の家族との交流を深めました。

③特別支援教育の充実（学校教育課）

特別な支援を必要とする児童生徒がいる学校でのきめ細かな指導を実現するとともに、学校生活を充実させるため、くじかがやきプラン特別支援教育支援員を市内20校に24名配置しました。

④情報教育の充実（学校教育課・教育総務課）

スマートフォンやSNS等の利用に際しての留意点等を盛り込んだ児童生徒向け啓発リーフレット2種を各小中学校に配布するとともに、小学校第6学年すべての児童に配布しました。

また、いじめ問題等についての知識の習得と理解を図るとともに、いじめの実態把握、いじめの未然防止の取組、重大事態への対応等及び情報モラル指導について、教育事務所主催の「いじめ問題等総合対策研修会」にて小久慈小学校が授業提案しました。

学校ICT環境については、児童生徒用タブレット型パソコン461台、教職員用パソコン448台、無線LAN等を整備し、デジタル教科書や学習支援システム、校務支援システムなどのソフトウェアを活用した情報教育の推進と校務の効率化を図りました。

⑤学習環境の充実（教育総務課）

・遠距離通学支援事業

小中学校の統廃合により、遠距離通学となった児童生徒に対し、スクールバス1路線及びタクシー11路線の委託運行に加え、山根・滝方面及び山形地区（5方面）ではスクールバスを直営で運行し、安全な通学手段を確保しました。

・就学援助事業

経済的な理由によって就学困難な児童441人、生徒203人の家庭に対し、就学援助費48,826千円を支給しました。

また、東日本大震災により被災した児童8人及び生徒9人の家庭に対し、就学援助費1,575千円を、特別支援学級就学児童39人及び生徒13人の家庭に対し、経済状況により就学奨励費1,464千円を支給しました。

⑥学校施設の充実（教育総務課）

改修工事10件、小修繕等213件を実施し、学校施設の維持補修及び環境の充実に努めました。

・遊具の設置

侍浜小学校、山形小学校

・校舎の改修

長内小学校：プール槽改修、屋外トイレ解体

大川目小学校：バックネット施設解体、設置

侍浜小学校、久慈中学校：受変電設備改修

久慈中学校：地下オイルタンク改修

長内中学校：柔剣道場屋根改修、防水改修

侍浜中学校：普通教室棟屋根改修

⑦学校給食の充実（学校給食センター）

・学校給食を通じた児童・生徒の心身の健やかな成長

児童生徒・教職員等約3,160人に対し、年間175日にわたって安心・安全な給食を提供しました。

・地産地消及び食育の推進

主食のお米は久慈市産米を85%、牛乳については「おおのゆめ牛乳」により久慈地域産100%を使用し、その他海産物・野菜類等、地域の特産物についても、食材の旬や生産時期に応じて地場産品の活用にも努めました。

また、栄養教諭による食育授業を小・中学校あわせて114回実施したほか、当市の特産食材を活用した「地産地消ふれあい給食の日」を市内小中学校で実施しました。また、生産者等を講師とした出前講座は、11月から1月にかけて計4回4小学校で実施し、農林水産業への理解を高める機会を設けるなど、食育を推進しました。

【施策の評価】

①生きる力の育成（学校教育課）

総合的な学習の時間では地域や企業の方々からの協力をいただきながら活動を行いました。今後も児童生徒の活動の幅や視野を広げるため事業を継続していきます。

市内小中学校音楽発表会は日頃の音楽活動の成果を発表し合い、他校の発表の鑑賞をとおして豊かな表現力や音楽性を高める機会となりました。小学校の部では特別演奏として中学生の合唱を鑑賞し、お互いにより刺激になったと捉えています。

山形地区の集合学習では、中学校で一緒に学ぶことになる児童が月に一回程度集まり、協力して活動を行うことにより、進学後の学級活動の順調なスタートにつながっています。

長期休業中に開催した「学びのサポート学習塾」では、苦手教科の克服や自らより深く学ぼうとする姿が見られ、学力向上の一助となっています。
CRT（教研式標準学力検査）の結果によると学習状況が良好な児童生徒の割合は小学5年生が86.8%、中学2年生では71.7%となりました。数学と英語担当指導主事の派遣により、両教科の教育の充実を図るとともに、各校が立案し実施している「確かな学び豊かな学び実現プラン」の進捗状況の把握と指導に努めてまいります。

②国際理解教育の充実（学校教育課）

外国語指導助手（ALT）の派遣により、小学校外国語活動や中学校英語教育の充実が図られています。岩手県学習定着度状況調査の結果によると英語の授業がわかる生徒の割合が平成29年度は59.0%、平成30年度は68.0%と目標値を下回っていますが、今後さらに英語教育の充実を図り、目標達成に向けて努力してまいります。

また、中高生海外派遣事業は派遣生徒自身の成長はもちろんですが、自らの経験を発信することで周囲へ良い効果が得られていることから今後も継続していきます。

③特別支援教育の充実（学校教育課）

就学支援コーディネーターを中心とした就学前の支援及び就学後のくじかがやきプラン特別支援教育支援員の配置により、児童生徒への目の行き届いた支援・指導が可能となっていますので今後も継続していきます。

④情報教育の充実（学校教育課）

リーフレットの配布や研修会等により、児童生徒と教員、保護者の情報教育に関する意識は高まり、各校でも情報モラルに関する研修や指導を行っています。その成果としてSNSによるいじめは報告を受けていません。

⑤学習環境の充実（教育総務課）

・遠距離通学支援事業

児童生徒の減少に伴って送迎人数は減少傾向にありますが、引き続き各地区及び学校の状況に応じた通学支援を推進していきます。

・就学援助事業

経済的な理由によって就学困難な児童生徒数を前年度と比較すると、41人の減少であり、支給金額では9,188千円の減少となりました。

また、東日本大震災被災分の児童生徒数は、前年度より1人の減少であり、金額では100千円増加しました。特別支援については、前年度より人数は6人、金額では279千円の増加となっています。

今後も、新入学児童生徒学用品費の入学前支給の継続や支給費目の追加など、援助事業の充実を図ります。

⑥学校施設の充実（教育総務課）

地震対策については、平成26年度に耐震化率100%を達成し、平成27年度には7校の天井落下防止対策を実施しております。トイレの水洗化についても、平成28年度に全22校の水洗化がなされ、水洗化率は100%となっております。また、設備関係につきましては、平成28年度から計画的に受変電設備の更新を行っているところであります。今後も、「小中学校の適正配置に関する基本方針」等との整合性を保ちながら、学校施設の適切な保守管理を図りながら、施設改修等、計画的な整備を進めてまいります。

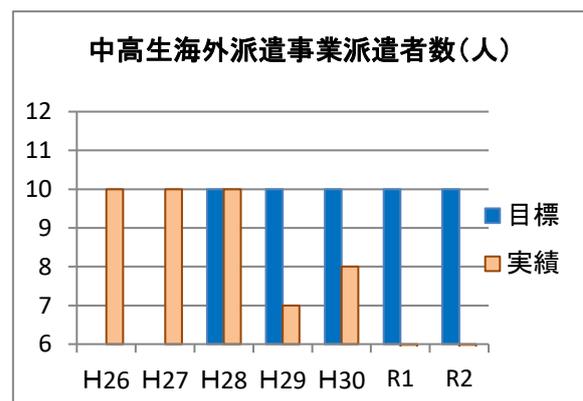
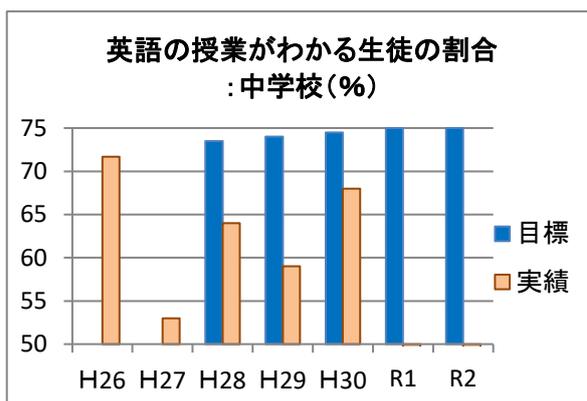
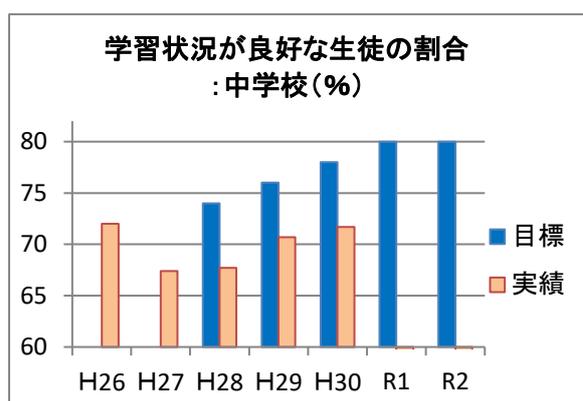
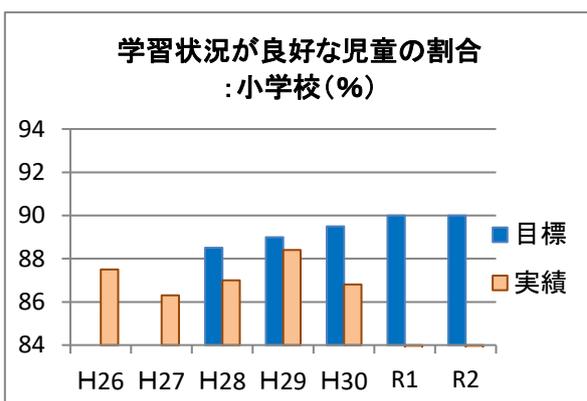
⑦学校給食の充実（給食センター）

地産地消は、食育指導をするにあたり、地域の食文化や産業についての関心や理解を深め、食に関わる人々や食物への感謝の気持ちを育ませるなど、教育的意義が高いことから、引き続き推進していきます。

また、毎年3割程度で推移している地域産食材の購入割合を高めるため、郷土料理や和食を活用した給食の提供を推進するなど、地場産品の更なる利用を図っていきます。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	学習状況が良好な児童の割合・小学校（％）		87.5	目標 86.3	88.5	87.0	89.0	86.8
		達成率	98%	99%	97%	—	—	—
学習状況が良好な生徒の割合・中学校（％）	72.0	目標 67.4	74.0	67.7	76.0	71.7	80.0	80.0
		達成率	91%	93%	92%	—	—	—
英語の授業がわかる生徒の割合（％）	71.7	目標 53.0	73.5	64.0	74.0	68.0	75.0	75.0
		達成率	87%	80%	91%	—	—	—
中高生海外派遣事業派遣者数（人）※再掲	10	目標 10	10	10	7	8	10	10
		達成率	100%	70%	80%	—	—	—



第3章 基礎戦略2 総合力豊かな人材を育てるまちづくり 第3節 生涯学習の充実

【平成30年度の取組】

①生涯学習の充実（生涯学習課）

・学校・家庭・地域の連携協力推進事業

学校・家庭・地域が連携し、地域全体で子どもを育む環境を充実するため、学校・家庭・地域の連携協力推進事業を実施しました。家庭教育の支援としては、乳幼児期から思春期までの子どもとその保護者を対象に、子育て支援センターや小・中学校、各市民センターを会場に48回の学習機会を提供しました。各市民センターを拠点に実施する放課後子ども教室では、1,816人のサポーター等指導者が参画して子どもたちの放課後の活動の見守りや活動の支援を行いました。学校支援地域本部事業では、学校と地域の連携協働体制を構築するため、地域のボランティア5,714人の協力を得て、11校において学校の教育活動を支援する取組を実施しました。

・生涯各時期における学習活動の支援

各市民センターにおいては、子どもから高齢者まで各年代のニーズに応じた様々な講座や事業を展開し、市内9市民センターにおいて1,750回の学習機会を提供し、49,910人の参加がありました（H29：1,546回、45,513人）。

・公民館類似施設等社会教育事業費補助事業

公民館類似施設における社会教育活動を支援するため、施設の備品購入や維持補修事業に対し、18館に補助金1,898千円を交付しました。

②文化施設の連携と芸術文化活動の充実（文化課）

芸術・文化創造活動の推進のため、公演事業は「音楽の贈り物vol.4～シュトゥットガルト室内管弦楽団withワルター・アウアー」「DRUM TAO RHYTHM of TRIBE 時空旅行記」など、幅広いジャンルで16事業を実施し、参加者は8,148人（前年度4,710人）でした。前年度と比較し、2事業増、参加者数は3,438人、73.0%の増となり、エンタテインメント性の高い集客力のある事業が多かったことによるものです。

また、育成事業としては、「吹奏楽クリニック」等11事業を実施し、参加者は3,986人（前年度5,690人）でした。前年度と比較し、1,704人30.1%の減となっております。これは、昨年度実施した「北いわて学生デザインファッションショー（1,100人）」「市民参加型オペラの練習（927人）」といった大型事業がなかったためであり、公演事業の出演者によるアウトリーチ演奏会は増えました。クリニック、演劇ワークショップの参加者数は減少傾向ですが、合唱ワークショップの参加者はやや増えています。

また、東日本大震災及び台風被害の復興支援として3事業を実施し、多くの方に多種多様な文化・芸術を提供しました。

③図書館機能の充実（図書館）

・学習機会の提供

市民自ら学ぶ生涯学習の拠点施設として、市民のリクエストに応じた選書と地域資料の収集保存に努めるとともに、読書に対する関心や学習機会として多くの企画展（2館計42テーマ）を開催し、図書館の利用促進を図りました。キャリア教育の一環として、施設見学や職場体験等（30回、延べ456人）を積極的に受け入れるとともに、読書ボランティアの育成や活動支援につながるボランティア講座（4回）、朗読劇公演（4回）を開催しました。

・子育て応援事業の推進

将来を担う子ども達の成長に、読書活動が重要であると捉え、0歳児へのブックスタート事業、図書館や子育て支援センター等における読み聞かせ会、図書館での映画上映会（毎月）や地域に出向く「どこでも映画会」を開催し、子ども達の読書を楽しむ習慣形成に努めました。

・新図書館建設の推進

相談機能の強化と誰にでも親しまれる図書館を目指し、新図書館建設に着工するとともに、既存の蔵書整理を進め、3,390冊を除籍し、資料の更新に努めました。また、各機能の充実を図り、運用形態を研究し、より安全で機能性の高いシステムのIC化の実現に着手しました。

④地域の歴史と文化の継承と発信（文化課）

旧長内中学校跡を活用し運営している久慈市歴史民俗資料室は、予約制による一般公開を実施しており、平成30年度は481人が来場、前年度比3人の増となりました。また、小久慈朝市の開催日に合わせて8月から11月の計4回、資料室の特別公開を実施し、好評を得ました。資料室の見学以外にも、児童を対象とした古民具等の体験授業を実施し、地域の歴史に触れる機会を設けました。

また、生誕180年を記念し、郷土の偉人小田為綱の生涯を紹介する資料展を実施しました。来場者は2日間で565名を数え、多くの方に情報発信することができました。

芸術文化事業では、久慈市民芸術文化祭を開催し、11月の合同発表では展示・舞台・茶道の各部門を実施、3日間で計2,811人が来場しました。また加盟団体による個別発表では計1,879人が来場、年間の総数は合わせて4,840名となり、地域の文化活動の成果発表の場として多くの方に参加していただくことができました。

【施策の評価】

①生涯学習の充実（生涯学習課）

生涯学習や地域づくり活動の拠点である市民センターの利用者は、129,413人であり、市民1人あたり3.72回の利用実績となり、目標を下回っています。サークルや団体の利用は減少傾向にありますが、主催事業においては、ふるさと未来づくり事業等の地域づくり活動事業の実施により、件数、参加人数ともに増加しており、前年度との比較では横ばいとなっております。今後においても、地域づくりや学習活動の場として、市民や団体等が気軽に集まり、利用しやすい施設になるよう努めるとともに、市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めてまいります。

公民館類似施設については、老朽化が進み、地域における社会教育環境の整備が求められているところであり、補助制度の継続により支援してまいります。

②文化施設の連携と芸術文化活動の充実（文化課）

文化施設利用者数は110,640人で目標値の101,200人を達成できましたが、公演やイベント等の内容により増減があることから、市民のニーズを把握し、多くの市民が利用できる事業実施と貸館の利用促進に努めてまいります。

③図書館機能の充実（図書館）

年間を通して各種企画展、講座や教室を開催し、多くの資料を紹介することができました。また、ボランティア活動に参加する方も増え、新たな図書館への関心につなげることができました。しかし、施設来館者数は昨年48,749人から48,584人（165人減）となりました。一人あたりの貸出冊数についても3.5冊から3.4冊へと減少し、目標の4.0冊には至っておりません。これは、少子高齢化に伴い、子ども達の来館や地域における個人利用者の減少が大きく影響している状況にあります。利用者個人に対する広報活動が必要であると捉え、広報の活用の他にホームページの工夫等を行ってまいります。

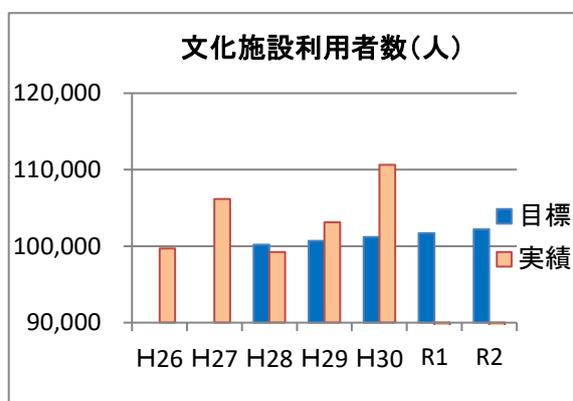
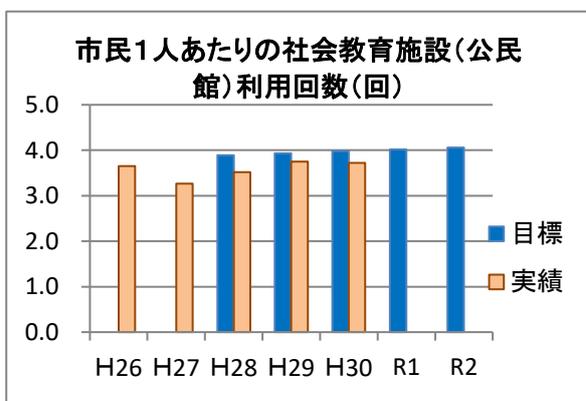
④地域の歴史と文化の継承と発信（文化課）

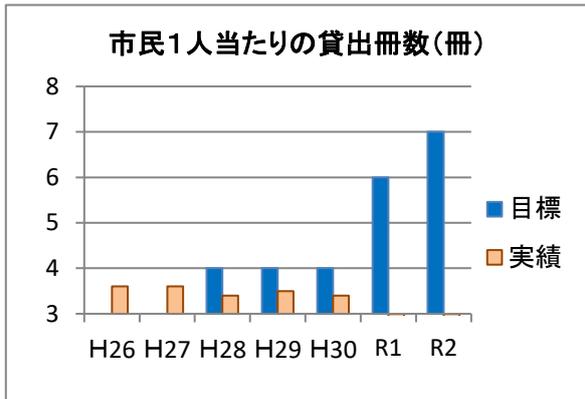
歴史民俗資料室は、製鉄関連資料や郷土の偉人の資料、住民から寄贈された古民具など、収蔵資料は点数、内容とも充実しています。市内外の一般の来場者のほか、学校の見学等による利用も多く、学習の場として活用されています。現在の施設の適切な管理・運営を継続するとともに、文化財展示施設の移転について検討を進めてまいります。

また、地域に残された貴重な文化財の保存を図り、調査と情報発信を行ってまいります。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
市民1人あたりの社会教育施設（公民館）利用回数（回）	3.65	目標		3.89	3.93	3.98	4.02	4.06
		実績	3.27	3.52	3.75	3.72	—	—
		達成率		90%	95%	93%	—	—
文化施設利用者数（人）	99,700	目標		100,200	100,700	101,200	101,700	102,200
		実績	106,168	99,248	103,127	110,640	—	—
		達成率		99%	102%	109%	—	—
市民1人当たりの貸出冊数（冊）	3.6	目標		4.0	4.0	4.0	6.0	7.0
		実績	3.6	3.4	3.5	3.4	—	—
		達成率		85%	88%	85%	—	—





第3章 基礎戦略2

総合力豊かな人材を育てるまちづくり

第4節 生涯スポーツの振興

【平成30年度の取組】

①生涯スポーツの充実（生涯学習課）

・各種スポーツ大会、スポーツ教室などのスポーツ活動の機会を提供しました。

▶ 各種スポーツ大会は、ソフトバレーボール大会など4大会
（参加者数273人、前年比107人増）

▶ 各種スポーツ教室は、おとどけスポーツ教室など37回開催
（参加者数827人、前年比44人増）

・各競技団体等に補助金を支出し、スポーツ人口の拡大や選手の発掘、指導者の養成等を図りました。

▶ 社会体育団体育成補助金

▶ スポーツ少年団育成補助金

▶ スポーツ振興事業費補助金

・市体育協会、関係団体と連携を強化し、誰もが参加できる安全で魅力ある大会運営に努めました。

▶ 久慈市民体育大会（参加者2,596人、前年比349人減）

▶ 第23回もぐらんびあ駅伝競走大会（参加者619人、前年比149人増）

▶ 第3回久慈あまちゃんマラソン大会（参加者1,457人、前年比208人増）

▶ 市長杯争奪大会7大会（柔道、パークゴルフ、マレットゴルフ、ゲートボール、少年野球、ゴルフ、スキー・スノーボード）
（参加者計860人、前年比8人減）

②体育施設の有効利用（生涯学習課）

各種大会の開催（共催、後援事業）82回、県大会以上の大会を2回開催しました。市民体育館、第二体育館、柔剣道場等の利用者数は延べ170,777人となり、前年比で1,534人の減となりました。（延べ170,777人 前年比1,534人減）

③柔道のまちづくりの推進（生涯学習課）

・第56回三船十段杯争奪柔道大会の開催をはじめ、各種柔道大会等を開催し、柔道の普及発展と競技力向上を図りました。

・三船十段記念館の資料展示については、市民体育館等のイベントに合わせて、特別移動展示を行う等「柔道のまち」の情報発信に努めました。

【施策の評価】

①生涯スポーツの充実（生涯学習課）

指標である生涯スポーツに関する満足度平均値（市民満足度アンケート）の結果は昨年度に比べ0.05ポイントの微減となりましたが、概ね横ばいで推移したものと捉えております。

開催以降、順調に参加者を伸ばしている久慈あまちゃんマラソンや、三船十段杯争奪柔道大会等を継続して実施することにより、スポーツ活動の提供に努めて参ります。

今後は、スポーツ施設の老朽化に伴う改修計画により、市民満足度もより高まるものと考えられますので、引き続き努力を続けて参ります。

②体育施設の有効利用（生涯学習課）

市民1人当たりの体育利用施設利用回数は昨年度に比べ0.02ポイントの微増となりました。トレーニングルーム（市民体育館）や幼児体育室などの利用は概ね横ばいで推移していますが、体育施設全体の利用者数は減少傾向にあることから、家族でもスポーツの楽しさや面白さを味わうことができるような競技会、イベントや事業を様々な角度から検討し、ライフステージに合わせ、身近にスポーツに親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

③柔道のまちづくりの推進（生涯学習課）

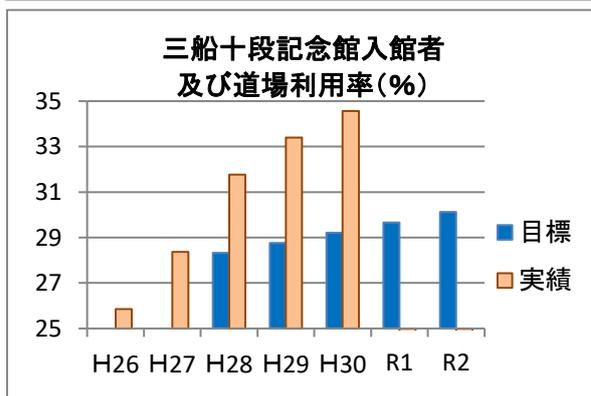
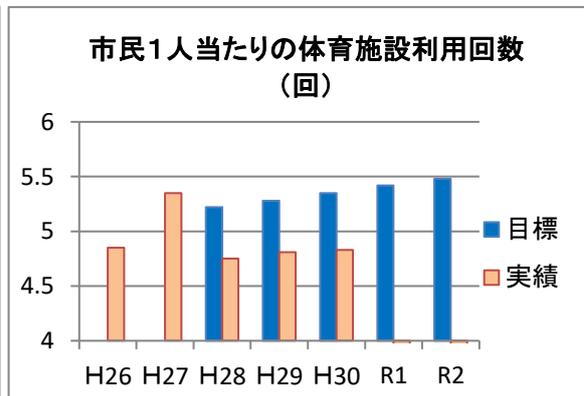
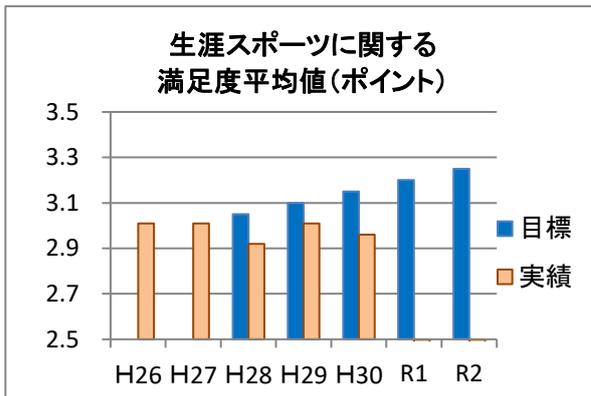
指標である、三船十段記念館入館者及び道場利用率は昨年度に比べ1.16ポイント増加しております。三船十段杯争奪柔道大会などの各種柔道大会や教室を開催し、柔道を「する人」だけでなく、「見る人」、「応援する人」を含めた柔道愛好者及び柔道人口の拡大に努めて参ります。

また、柔道大会等のイベントなどに合わせ、特別企画展等を定期的で開催しており、今後も市内外に「柔道のまち久慈」を情報発信し、地域活性化に努めて参ります。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
生涯スポーツに関する満足度平均値（ポイント） ※市民満足度アンケート	3.01	目標		3.05	3.10	3.15	3.20	3.25
		実績	3.01	2.92	3.01	2.96	—	—
		達成率		96%	97%	94%	—	—
市民1人当たりの体育施設利用回数（回）	4.85	目標		5.22	5.28	5.35	5.42	5.48
		実績	5.35	4.75	4.81	4.83	—	—
		達成率		91%	91%	90%	—	—
三船十段記念館入館者及び道場利用率（%） ※総人口に占める入館者及び道場利用者数の割合	25.86	目標		28.33	28.76	29.21	29.66	30.12
		実績	28.37	31.77	33.40	34.56	—	—
		達成率		112%	116%	118%	—	—

※「生涯スポーツに関する満足度平均値」のH26の欄の数値はH27の数値を使用。



第3章 基礎戦略2

総合力豊かな人材を育てるまちづくり

第5節 男女共同参画社会の推進

【平成30年度の取組】

①市民の意識の醸成（地域づくり振興課）

男女共同参画社会の実現に向け、市民や企業、団体が一体となった取り組みができるよう男女共同参画推進事業等の開催や広報、啓発活動に努めました。

- ・出前講座（5回、参加者合計684名）
- ・男女共同参画のつどい「マイ・インターン上映会」（参加者207名）
- ・久慈地方産業まつりへのブース出展（2日間延べ127名）
- ・広報くじ「Let's男女共同参画」コーナーの隔月掲載（6回）

②審議会委員等への積極的な登用（総務課・地域づくり振興課）

男女双方の意見を市政に反映するため、各種審議会等へ女性委員の登用を図りました。

③女性リーダーの養成（地域づくり振興課）

女性団体の活動支援を行うとともに、広い視野と自覚を持ったリーダーを育成するため、各種研修会等へ市民を派遣しました。

- ・いわて男女共同参画フェスティバル2018（7名）
- ・男女共同参画サポーター養成講座（累計39名）

【施策の評価】

①市民の意識の醸成（地域づくり振興課）

職場、学校、地域、家庭等あらゆる分野で男女共同参画社会を実現するため、平成26年3月策定「第2次久慈市男女共同参画計画」に基づいて継続的な取り組みを推進してまいりました。今後も出前講座やイベント等を継続開催し、市民の学習機会を提供するとともに、関係機関との連携を強化し、施策の推進を図ります。

②審議会委員等への積極的な登用（総務課・地域づくり振興課）

登用率は目標を下回っております。引き続き、庁内において女性委員の登用を呼び掛けて参ります。

③女性リーダーの養成（地域づくり振興課）

今後も幅広い視野と自覚を持ったリーダーの育成に努めてまいります。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
男女共同参画に係る出前講座（回）	4	目標	5	5	5	5	5	5
		実績	3	5	6	5	—	—
		達成率	60%	100%	120%	100%	—	—
審議会等における女性委員登用率（%）	35.9	目標	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	
		実績	35.6	35.6	32.2	32.1	—	—
		達成率	99%	96%	85%	82%	—	—
男女共同参画サポーター認定者数（人）※累計	32	目標	36	37	38	39	40	
		実績	35	35	37	39	—	—
		達成率	97%	95%	97%	103%	—	—

